

好学尚武

春季県大会の結果

● 県大会1回戦 対本庄東高校

学校名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	TB	計
市立浦和	3	0	0	0	1	0	1	0	0	2	7
本庄東	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	5

県大会1回戦は総力戦となりました。

市高、今年度の3年生は選手6名（私が監督になってから2番目に少ない代）。現在、そのうちスタメンで出場しているのは4名、その4名が活躍、途中出場した住田（5人目）がタイブレークで2点タイムリー、1人は出場しませんでした（副部長・6人目）、私は彼も、勝負所のシーンになったら起用しようと考えていました（6名の最上級生が勝利を手繰り寄せてくれました）。

唯一の3年マネ・大槻が担任との面談でこのように答えたそうです（ここで言って良かったかな？）。同学年の皆が（少ないのに）必死になってプレーしている姿が好きです。私の立場としてはその言葉、本当に嬉しかったです。積み重ねた3年間の活動で、選手とマネがしっかりと信頼関係を築いているのを確認できたからです。

埼玉県でベスト32に入りました。32校の中で3年生は1番少ないでしょう。でも＝弱い、負けるではありません。より結束して、また、1・2年生部員もしっかりとそこに加わって次戦も頑張りたいと思います。

遠く熊谷まで足を運んでいただきありがとうございます（次は地元・大宮です・笑）。引き続きよろしくお願い致します。

「臨機応変」

「野球を通じて、生きていく上で必要なことを学ぶ」そんなことを意識しながら日々の活動を行っていますが、「臨機応変な対応」これもその1つだと思います。野球は相手のあるスポーツ、お互い勝利を目指して行動（変化）する中、臨機応変な対応で自分達も勝利に近づこうとする必要があるからです。

春の県大会、組み合わせも決まり、初日を待つのみという状況の中、衝撃的な連絡が私達理事に回ってきました。それは、大宮公園球場スコアボードの電源が点かない・・・というもの。

文句を言っても仕方ありません。

まさに「臨機応変」、カウント表示器や仮のスコアボードを近隣高校から持ち寄り対応するという方法をとることに・・・（結局、試合当日までに修理が間に合う）。

地区大会でも様々な出来事が・・・

私の担当する市営浦和球場に、前日雷のため他球場で途中終了してしまった継続試合が入ることになりました（その日予定されている3試合を行なったあと、4試合目にその継続試合を行う）。

安易に継続試合と言いますが、確認（臨機応変に対応）するべきことがたくさん・・・

- 試合中断時のイニングやランナー、カウントの確認。
- シートノックは行う？その際はどちらのチームから行う？（→継続試合開始時、先を守るチームから行う）（普段は後攻チームから）
- 試合中断時に出場していた選手の確認（その前に交代した選手は継続試合に出場できない→シートノックには入ることができる）
- 継続試合開始（再開）時、両チームの整列は行う？（→整列する）

仕事に就いてもこのような（臨機応変な）対応、しょっちゅうあるのではないのでしょうか？
野球から様々なことを学びましょう。